

**北しりべし定住自立圏共生ビジョン（素案）に対して  
提出された意見等の概要及び市の考え方等**

- |   |                     |    |
|---|---------------------|----|
| 1 | 意見等の提出者数            | 1名 |
| 2 | 意見等の件数              | 3件 |
| 3 | 上記2のうち計画等の案を修正をした件数 | 0件 |
| 4 | 意見等の概要及び市の考え方       |    |

NO	意見の概要	市の考え方等
1	「北しりべし成年後見センター」をセントラルタウン室店舗を活用したように、「地域医療連携」、「安心して暮らせる各種相談」、「地域交通基盤整備」に「中心市街地活性化」も含めて、「集まる、交流する」環境を“目に見える”よう創り出すべきと考えます。	本年4月に小樽の中心街にあるサンモール1番街の空き店舗を活用し、「北しりべし成年後見センター」を開設し、あわせて、小樽市中部地域包括支援センターも移転し、利用者の利便性を図りました。今後、圏域の住民が利用しやすい環境を考慮したサービスの提供について、具体的連携施策を協議する中で検討していきます。
2	広域観光と地域交通基盤を推進する際、北海道新幹線開通時のJR小樽～長万部間の存続または廃止問題への対応を今から開始する必要がある。通学・通院の足のみならず、「SLニセコ号」の盛況ぶりなど、鉄道は小樽にとって非常に重要な観光資源です。	共生ビジョン（素案）においては、北海道横断自動車道や北海道新幹線の開通に伴う圏域内の交通ネットワークの構築に向けた検討を進めることとしています。北海道新幹線については、開通後の地域振興への影響等に対する関心が高まっていることから、後志管内の沿線自治体において、情報の収集や共通理解を持つとともに、新幹線と広域的な地域振興のあり方などについて調査・研究を行っています。
3	産業振興は、ゴム・プラスチック、不凍管・機械・金属、暖房設備・燃料など、工業製品でも、極東ロシア、サハリン、中国東北部に販路を拡大し、港湾含め北しりべしの雇用拡大を図ることが必須です。	共生ビジョン（素案）で記載している産業振興の取組は、東アジア圏を中心に小樽港を活用した販路開拓に取り組みますが、極東ロシアにおいても地域の現状について、情報収集しているところであり、この取組は、小樽港の活用による港湾関連産業の活性化にもつながることから、小樽市の特徴である「ものづくり産業」による工業製品等についても、販路開拓に向けて調査・研究を行っています。

\* 同じ内容の意見が複数ある場合は、「意見等の概要」の最後に件数を記載してください。

\* 計画等の案を修正した場合は、「市の考え方等」の欄に修正箇所を併せて記載してください。